

令和元年6月定例会市議会市政報告

令和元年第4回釧路市議会6月定例会の開会にあたり、2月定例会市議会以降の市政の概要についてご報告申し上げます。

最初の報告は「**J R北海道単独で維持困難な線区への対応**」についてであります。

北海道では、J R北海道の維持困難な8線区について、沿線市町村とともに「緊急かつ臨時的な支援」の実施に向けた準備を進めており、去る6月14日に行われた知事の定例記者会見において、この支援に向けた補正予算を第2回定例道議会に提案することが示されたところであります。

この支援は、北海道と沿線市町村が一体となって実施するものであり、支援規模は年間2億円、実施時期については、2019年度、20年度の2か年度とするものであります。

5月に、北海道から関係する市町村に対して支援要請があり、市といたしましては、これに同意することとし、今後、補正予算の計上を予定しているところであります。

報告の第2は、「**ひがし北海道クレインズとの連携協力**」についてであります。

「ひがし北海道クレインズ」は、「氷都くしろ」のシンボルである「日本製紙クレインズ」の歴史と伝統を受け継ぐチームであります。

5月29日には、運営会社である「ひがし北海道アイスホッケークラブ合同会社」から当市に対し、包括連携協定の締結やチームの活動環境の整備などについて協力要請があったところであります。

国内トップチームの存続は、地域スポーツの振興や経済の活性化に大きく寄与するものでありますことから、来る6月26日、釧路市と「ひがし北海道クレインズ」との包括連携協定を締結することといたしました。

また、チームの十分な練習環境を確保する観点から、市の支援策として、練習時におけるリンク使用料を全額免除することとしたところであります。

今後も、地域に愛されるチームとしてご活躍頂けるよう、釧路アイスホッケー連盟など関係団体と連携しながら進めていきたいと考えております。

報告の第3は「**高齢者外出促進バス事業**」についてであります。

70歳以上の市民の方を対象に、路線バスの利用に対し助成を行う「高齢者外出促進バス事業」につきましては、6月1日の制度開始に合わせ、本年5月20日から市内郵便局にて、乗車証「おでかけパスポート70」の交付を開始いたしました。

路線バス利用が、1回当たり原則百円で可能となったほか、定期券の購入助成も開始したところであり、利用者数も順調に増加しているところであります。

本事業を通じて、高齢者の方々の外出機会の増が図られ、生きがいがづくり・健康づくり

のほか、地域公共交通維持や自動車運転免許証の自主返納の促進などにつながっていくものと考えております。

報告の第4は、「**釧路みなとオアシスの登録**」についてであります。

去る5月1日、釧路フィッシャーマンズワーフMOO、EGGを代表施設とした周辺エリアが、国土交通省の「釧路みなとオアシス」として登録されました。

「みなとオアシス」は「みなと」を核としたまちづくりを促進するため、港に関する交流施設や旅客ターミナル、緑地などを活用した交流拠点などを対象に認定されるものであり、現在、道内では釧路港を含め11か所、全国では130か所が登録されております。

今後は、「釧路みなとオアシス協議会」と連携して、釧路港へ寄港するクルーズ船のおもてなし活動を通して、登録された施設の利用促進を図り、みなとの活性化につなげてまいりたいと考えております。

報告の第5は、「**平成30年度各会計の決算状況**」についてであります。

はじめに、一般会計につきましては、歳入総額約932億4千万円、歳出総額約925億8千万円となり、形式収支は約6億6千万円の黒字となったところであります。

これは、歳入で、各種事業の執行に伴う国庫支出金や市債など、繰越明許費を含めて約44億1千万円の収入不足となったものの、歳出において、扶助費の減並びに工事契約差金や経費の節減などによる執行残が、繰越明許費を含め、収入不足分を上回る約50億7千万円となったことによるものであります。

形式収支の約6億6千万円から令和元年度への繰越明許費に充当する一般財源約2千万円を除いた実質収支は約6億4千万円となり、このうち約2億6千万円を次年度へ繰り越すとともに、3億3千万円を財政調整基金へ、5千万円を公共施設整備等基金へ、それぞれ積み立てたところであります。

特別会計につきましては、国民健康保険会計で、保険料収入の増や保険給付費が予算を下回ったことなどから、約2億3千万円の剰余金が生じたので、国民健康保険事業運営基金に積立てをいたします。

介護保険会計の保険事業勘定では、国及び道負担金等の超過受納や保険給付費が予算を下回ったことなどから、約4億8千万円の剰余金が生じたので、返還金の補正財源約3億円を含め、介護給付費準備基金に積立てをいたします。

駐車場事業会計では、使用料収入におきまして予算を上回ったことなどから、約1千万円の剰余金が生じたので、駐車場整備基金に積立てをいたします。

国民健康保険阿寒診療所会計ほか、他の特別会計につきましては、概ね収支均衡する見込みとなっております。

報告の第6は、「**工事発注状況**」についてであります。

5月31日現在、本年度の建設事業の発注予定額は、約144億2千万円となっており、発注済額は約23億8千万円であり、発注率はおよそ16.5%となっております。

このうち、地元企業への発注は、金額で約21億5千万円、率ではおよそ90%であります。

今後とも地域経済の動向を念頭に置き、工事の早期発注に努めてまいります。

以上で、市政報告を終わります。